

砺波総合病院
から



リハビリテーション科
中波 暁

市立砺波総合病院
☎32-3320

病院のホームページもご覧ください。

食べる・飲む・飲み込むの障害

私たちにとって「食べる」ことは生命維持・身体活動に必要な栄養を取るだけでなく、美味しいものや好きなものを食べることを楽しみ、生活の質を上げる文化的な面もあります。

今回はこの「食べる・飲む」についての障害を説明します。

摂食・嚥下障害とは

「食べ物」を口に入れる→歯で噛み砕く→飲み込む→食道から胃に流し込む」の一連の動作のどこかに不都合が生じている状態です。

例えば、食べる時には口に入れる前

に、見たり、においを嗅いだり、どんな食べ物か判断したりしますし、箸などの道具を使ったり、食べやすい姿勢を整えるなどしているのです。口に入れるまでの障害も含めて摂食・嚥下障害という言葉を使います。

考えられる原因

脳卒中など脳や神経の病気で嚥下障害が起きる場合が多いのですが、認知症により摂食・嚥下障害が現れて進行する場合があります。

また、他の病気の治療に伴う絶食が、嚥下障害が進行する事もあります。実際にはこれらの原因が複合的に関わっています。

障害が発生するとみられる症状

例えば脳卒中では急に飲み込めなくなったり、唾液も飲み込めず痰が増えたりします。徐々に食べられなくなる場合は飲食時にむせる、固いものが食べにくい・丸飲み・食事に時間がかかる等がみられます。

そして、必要な栄養量が取れずに徐々に痩せて元気がなくなる・脱水になる、食べ物や喉に詰まらせて窒息したり、誤嚥性肺炎になることもありま

治療の可能性

病院で嚥下障害と診断した場合は入院中に治らない場合が多いのですが、

なかには治ることもあります。

脳卒中の急性期に嚥下障害のある人が約30%といわれていますが、その8割が自然に改善し、慢性期まで嚥下障害が残るのは全体の約5%です。

また、加齢などにより徐々に進行した嚥下障害の場合、病院で診断するのは窒息や誤嚥性肺炎を発症した後が多く、嚥下障害も進行しているため元の健康状態に戻することは難しいのが現実です。

リハビリテーション

自分でもできる予防法は「嚥下体操」や「口腔ケア」です。

入院の間、専門の人と訓練しても嚥

下障害が残る通常の食事では誤嚥する場合、水分にトクミを付けたり、食べ物を飲み込みやすい形状に調整したり、食べる姿勢を誤嚥しにくいように工夫します。これを退院後も続けていただく必要があります。

患者・家族が注意すること

口の中を清潔に保つことです。障害者の口の中は十分に清掃することができずに、食べかすが何か月も溜まっていることがあります。

入れ歯の手入れも十分に行えない状態を放置すると、口の中は細菌の巣になります。これが原因となって重症の肺炎を起こすことが多いのです。逆に口の中を清潔に保っておくと少しの誤嚥を起こしても肺炎を起こしにくいといわれています。

講演会

急性期から生活期に至る病態に応じた摂食嚥下リハビリテーションと口腔ケア

日時 11月8日(火) 午後7時
場所 砺波市出町子供歌舞伎曳山会館
講師 植田耕一郎氏 (日本大学歯学部教授)

問合せ 市立砺波総合病院 ☎32-3320

砺波医師会 市民公開講座

日時 11月13日(日)
午後2時～4時
会場 TONAMI 翔凜館 (旧平安閣)
座長 山下良平氏 (やました医院)
講演 「最近の白内障手術事情」
市立砺波総合病院 眼科部長 大田妙子氏
講演 「めまい その原因と治療法」
市立砺波総合病院 耳鼻科部長 山本環氏

砺波医師会 ☎32-5271